様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ８ 月 １６ 日現在

機関番号：８２６１１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2016
課題番号：２６５９０２６７

研究課題名（和文）通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の包括的な心の健康教育支援

研究課題名（英文）Comprehensive mental health education support for students with possible developmental disabilities in mainstreaming classes

研究代表者
神尾　陽子（Kamio, Yoko）

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所　児童・思春期精神保健研究部・部長

研究者番号：００２５２４４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：すべての人においてメンタルリスクがあることから、予防的観点から小学校から心の健康教育の必要性が認識されている。本研究は、児童生徒のスペクトラム分布をする発達特性を考慮して、ユニバーサルレベルの心の健康支援プログラムを開発し、小学校通級指導教室、中学校通常学級および適応指導教室、定時制高校といったさまざまな教育の場において実施可能性を検討した結果、汎用性を示唆する結果が得られた。

研究成果の概要（英文）：Given that a risk for mental disorders is supposed for most of children for their life course, the importance of effective school mental health program has been recognized from preventative perspective. In the current study, we developed a group-based anxiety treatment program by modifying the existing program for typical developing children, and confirmed that they could successfully participate in whether when clinician delivered or school teacher did. At the same time, we found that when the school mental health program was delivered in the mainstreaming classes, children with high autistic traits and those with low autistic traits could receive different benefits. Finally, we reconstructed the program to target anxiety, depression, and aggression, and confirmed the feasibility in different educational settings. In addition, we identified the sensitive parameters that can be used in the future research where the efficacy of the program will be examined.

研究分野：特別支援教育、児童精神医学、臨床心理学

キーワード：発達障害・情緒障害　通常学級　心の健康教育　不安　集団認知行動療法　自閉スペクトラム症

１．研究開始当初の背景

近年、文部科学省の調査や国内外の研究より、知的障害のない発達障害のある子どもの大多数が就学前に診断を受けておらず、専門的支援を受けない状態で就学し、学校生活を送っていることがわかってきた。今や発達障害特性は診断児に限らず、程度の違いはあってもより多くの子どもが抱える問題であるという認識が定着しつつある。発達障害のある子どもは高率に不安やうつなどの深刻なメンタルヘルスの問題も合併するが、周囲は問題行動に注目しがちで内面の問題を見逃しやすく、児童期に適切に対応されずに慢性化しがちである。その結果、学校生活や学習に支障を来すだけでなく、意欲や自信をなくし、青年・成人期に至ってひきこもりや社会不適応など重大な二次障害を伴う危険性がある。このことから、小中学校通常学級も含むすべての児童生徒は一定のメンタルリスクがあることを前提として、予防的観点から小中学校での心の健康教育の重要性が認識されるようになっている。

２．研究の目的

本研究は、通常の心の健康教育プログラムでは実践的な理解獲得が難しく、また最もニーズの高いハイリスク児発達障害の可能性のある児童生徒の特性を考慮して、ユニバーサルレベルの心の健康支援プログラムを開発し、小学校通級指導教室、中学校通常学級および適応指導教室、定時制高校といったさまざまな教育の場において、実施可能性を検討し、その有用性を検証することを目的とする。

３．研究の方法

いずれも NCNP および同志社大学と市町村教育委員会との連携協力事業に基づいて、教師向けの研修を広く実施した後に、保護者からの同意を取得して研究が行われた。

（1）<u>発達障害のある児童生徒向けの不安軽減を目的とするプログラムの開発と実施可能性の検討：</u>心理教育、認知再構成法、リラクゼーション、社会的スキル訓練などの要素を含む 10 セッション（1 セッション 60 分）で構成した。発達障害の認知特性を考慮し、小学生でも理解しやすいようにロールプレイやゲームをプログラムに取り入れた。まず、実際に自閉症スペクトラム障害のある小学生児童 3 名（3－6 年生）を対象に適用可能かどうかを研究場面で親子同席セッションを行い、検討した（H26）。次に、実際に教師が教育場面で実施可能かどうかを調べるために、小学校 1 校の通級学級（小学校 5 年生）で実施し、同意の得られた自閉症スペクトラム児 3 名についてプログラム理解度、教師実施の遵守性、社会的妥当性につて検討した。また、子どもの変化を最も反映しうる効果指標について検討を行った(H27)。

(2)<u>通常学級向けの心の健康教育プログラムの開発と効果検証</u>：通常学級在籍児童生徒の精神発達には個人差が大きく、発達特性の程度は定型から診断閾下、さらには診断レベルの者まで幅広いことが想定される。そのため、通常学級で一斉に実施する際には、それぞれに心の健康支援ニーズの内容や程度は異なる児童生徒を想定したユニバーサルなプログラムが必要と考えられる。社会的スキル訓練を導入したコーチング法と仲間媒介法によるプログラムを開発し、中学 1 年生の通常学級生徒を介入群と統制群に分けて事前事後の変化および生徒の発達特性に評価を行った(H26)。次に、学校教育課程内における実施可能性を検討してプログラムの再構築を行い、別の中学校での予備調査を行った(H27)。高校のニーズに応じて、高校生にも実施可能かどうかについて定時制高校 3－4 年生を対象に検討した(H28)。

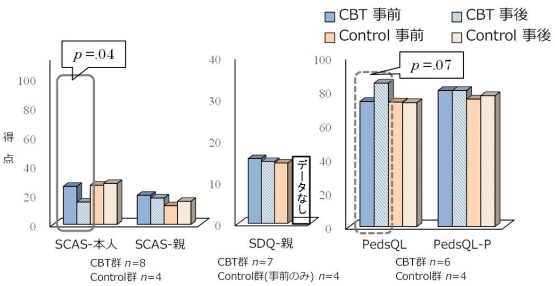
４．研究成果

(1) <u>発達障害のある児童生徒向けの不安軽減を目的とするプログラム:</u>児童の出席率は 100%，保護者の感想も肯定的で，自閉症スペクトラム障害のある児童に対して適用できることが示された。学校での実施では高い忠実性が確認され，児童の理解度は終了後 3 ヵ月時点でも高い水準で維持されていた。児童，教師による社会的妥当性の回答はおおむね良好であったが，授業の準備にかかる教師への負担が大きいことが示唆された。

	構成要素	プログラム名
1	オリエンテーションと心理教育	きもちのことを知ろう！
2	認知再構成法①	かんがえをとりだそう！
3	認知再構成法②	おじゃま虫をつかまえよう！
4	認知再構成法③	おじゃま虫とおたすけマンを知ろう！
5	エクスポージャーの心理教育	ふあんのしくみを知ろう！
6	リラクセーション	リラックス方法を知ろう！
7	社会的スキル訓練①	きもちのよいあいづちの仕方
8	社会的スキル訓練②	あたたかい言葉をかけよう！
9	社会的スキル訓練③	きもちのよいことわり方
10	まとめ	プログラムのおさらい

プログラム前後の発達障害のある児童の不安関連行動の変化に関して、児童評定および親評定の不安症状尺度(SCAS)、児童評定および親評定の QOL 尺度(PedsQL)、親評定の全般的精神症状尺度の SDQ を用いて、介入群 8 名、統制群 4 名について事前事後で比較した。その結果、介入群の児童評定の SCAS スコアにおいてのみ有意な減少が認められ、親評定では両群とも有意な変化がなかった。児童評定の PedsQL スコアも、介入群では有意傾向にある減少が示された。以上より、本研究で作出した不安軽減プログラムは ASD 児に実施可能であることが示唆され、また発達障害のある小学生児童に対して実施した場合の効果指標には、親評定よりもむしろ児童評定の不

安尺度得点が鋭敏に変化を捉えうる可能性が示唆された。今後、さらに多数例で長期的な検討を通して確認する必要がある。



(2)<u>通常学級向けの心の健康教育プログラム</u>：社会的スキルの向上に焦点を当てたプログラムを中学生に実施し、SRS(Social Responsiveness Scale 対人応答性尺度)を用いて測定した自閉症的特性の高低 2 群（高群 H-ALT：SRS スコア≧T 得点 65 点、低群 L-ALT：<T 得点 35 点）で、事前事後の社会的スキルおよび学校適応感の変化を比較した。その結果、高群の生徒に関しては，統制群では肯定的な変化が示されなかったのに対し，介入群では有意な社会的スキルの向上と身体的ストレス反応の低下が示された。一方、低群の生徒に対しては，統制群と比較して介入後に有意なソーシャルサポートの向上と孤独感の改善が示された。これより，本研究で用いたユニバーサルプログラムは、生徒の発達特性の程度に応じてそれぞれに異なる効果が期待できる可能性が示された。

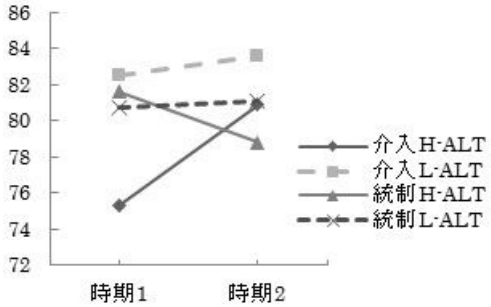


図 1　社会的スキル総得点の平均値の推移

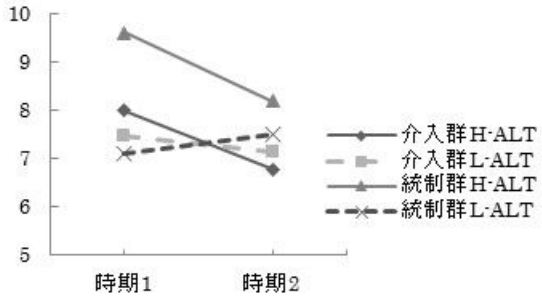


図 2　身体的ストレス反応の平均値の推移

これらの結果にもとづき、汎用性の高いプログラムとするため、不安、うつ、いらいらなど異なるメンタルな問題に対する認知行動療法的な要素を取り入れて再構築を行った。今後、大規模研究を計画するにあたって、中学生だけでなく、高校生を対象に実施し、事後にアンケート調査を行った。その結果、理解度は 81-94%、満足度は 71-83%、今後使えると思うかの質問には 76-78%がはいと回答した。以上から、対象に応じて多少の修正を加えることで、小学生から高校生まで実施することができる、心の健康支援ツールとして有望と考えられる。今後、大規模サンプルで検証を行い、インクルーシブ教育の推進に資するしっかりしたエビデンスを構築したい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

1) <u>中西陽</u>，<u>石川信一</u>，<u>神尾陽子</u>．（2016）．自閉的特性を強く示す中学生に対する通常学級での集団社会的スキル訓練の効果．教育心理学研究，64，544-554．
2) <u>野中俊介</u>，…<u>石川信一</u>，<u>神尾陽子</u>．(印刷中)．自閉スペクトラム症児童の不安に対する集団認知行動療法プログラムの開発；実施可能性に関する予備的検討．児童青年精神医学とその近接領域．

〔学会発表〕（計 6 件）

1) <u>野中俊介</u>,…，<u>石川信一</u>，<u>神尾陽子</u>．自閉スペクトラム症を有する児童向けの認知行動療法的不安軽減プログラムの検討．第８回日本不安症学会学術大会，千葉，2016.2.6.
2) <u>野中俊介</u>,…<u>神尾陽子</u>.不安症状のある自閉スペクトラム症児に対する集団認知行動療法プログラムの開発と実施可能性の検討.第 56 回日本児童青年精神医学会総会,横浜 2015.10.01.
3) <u>Kamio Y,</u> et al. Symposium 22 How is stress related to onset, treatment and prognosis in major depressive and anxiety disorders? Developmental trajectories of anxiety symptoms in childhood: Relationship to autistic symptoms/traits. World Psychiatric Association (WPA) Regional Congress Osaka Japan 2015, June 5, 2015, Osaka, Japan.
4) <u>野中俊介</u>,..<u>神尾陽子</u>．通級指導教室に在籍する ASD 児の不安症状に対する集団認知行動療法の予備的検討（第一報）(ポスター発表)．日本認知・行動療法学会第 40 回大会，富山，2014.11.3.

5) 中西陽、石川信一、神尾陽子．自閉的特性を強く示す中学生の社会的スキルと学校適応．第 55 回日本児童青年精神医学会総会，浜松 2014.10.12.
6) 神尾陽子，他． シンポジウム 55: 神経症と発達障害の診断と治療．神経症とその併存症の診断と治療.第 110 回日本精神神経学会学術総会，横浜，2014.6.27.

〔図書〕（計 1 件）
1) 神尾陽子(2017)．子どもの心の健康を学校で育て、守る：教育と医療を統合した心の健康支援．叢書 23 子どもの健康を育むために－医療と教育のギャップを克服する－.pp.100-114．編集 神尾陽子他,日本学術協力財団，東京，2017.3.28.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）
〔その他〕特になし

６．研究組織
(1)研究代表者
神尾　陽子（kamio,Yoko）
（国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・児童・思春期精神保健研究部・部長）
研究者番号：00252445

(2)研究分担者
石川　信一(Ishikawa,Shinichi)
（同志社大学・心理学部・准教授）
研究者番号： 90404392

(3)連携研究者
な　し

(4)研究協力者
野中　俊介(Nonaka,Syunsuke)
（国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・児童・思春期精神保健研究部・科研費研究員）

中西　陽(Nakanisi,Yo)
（同志社大学・心理学部・特別研究員）